
施工要領書

本施工要領書をよくお読みいただき、正しく安全に施工してください。

本施工要領書に記載されていない方法や、専用部材を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じた際は弊社では責任は負えません。

● 安全上のご注意

- ・ 商品の角で手を切るなどの怪我をしないよう、運搬時・作業時は手袋をご使用ください。
- ・ 接着剤やシーリング材を使用する際は、密閉された空間で行わず、必ず換気を行ってください。
- ・ ノコギリ(電動・手動に限らず)を使用する場合は、粉塵対策のため保護メガネや防護マスクを使用し、また手などを切らないよう工具の取り扱いに十分注意してください。
- ・ 金づち・フローリングハンマーを使用する場合は、手などを打ち付けないよう注意してください。

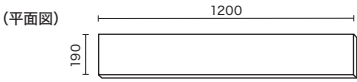
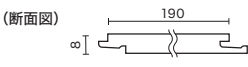
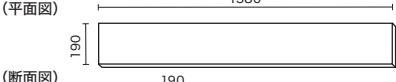
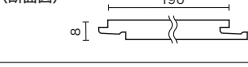
● 運搬ならびに保管上のご注意

- ・ 運搬、搬入、保管時に商品を落したり、角をぶつけたりしないでください。商品を足の上などに落とし怪我をする恐れや、サネ部分に欠けや割れが発生し、施工の仕上がり不具合に繋がる恐れがあります。
- ・ 商品を保管、仮置きする場合は床面が平滑な場所に保管してください。また地面からの湿気を防ぐため、パレットの上や防湿シートの上で保管してください。
- ・ 階上げの際など、クレーンなどで吊り上げる際にサネに負荷がかからないようにしてください。
- ・ 段積みする場合は15段までとしてください。

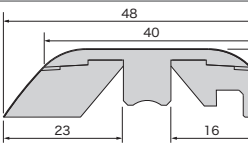
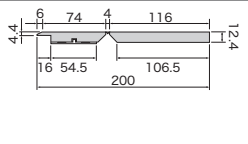
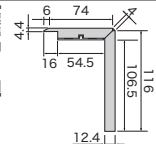
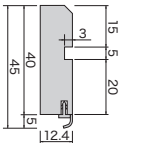
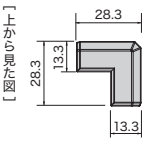
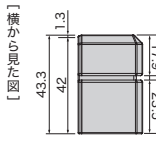
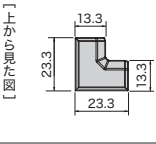
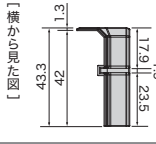
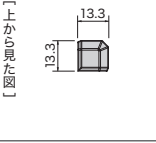
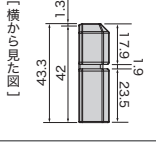
● 施工上のご注意

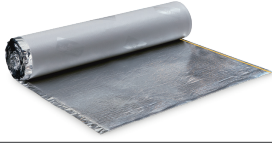
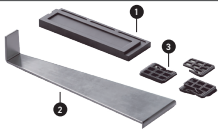
- ・ ハイブリッドフローリングは釘および接着剤を使用しないで施工するフローティング工法の商品です。根太の上に直接施工はできません。
- ・ 基材は木材であり、湿度の変化によって伸縮するフローリングです。そのため、壁際、窓際、間仕切り下などでフローリングが伸縮するためのクリアランス(8mm)を設けてください。また13mの長さを超える部屋では、マルチ見切材を使用して部屋を間仕切ってください。
- ・ 下地からの湿気が床材に影響を与えないよう下地が十分に乾燥していることを確認した上で防湿性のある専用のアンダーレイを必ずご使用ください。過度な湿気があると、商品に大きな伸縮やカビ・腐食が発生する場合があります。
- ・ フローリングのサネ部分が角当てなどで破損しているとクリック(嵌合)がしっかりとできない場合があります。フローリングのクリック(嵌合)がしっかりとされていないと、湿気による伸縮で目隙や突き上げの原因となります。
- ・ この商品は屋外や浴室など湿気の影響を大きく受ける場所には施工できません。
- ・ 床暖房下地の場合、専用のアンダーレイを必ず使用してください。床暖房機器メーカーのマニュアルがある場合はその指示に従って施工してください。安全衛生上の理由および不具合を避けるため商品の床表面温度は最大で27℃までとなります。また施工するためには床下地が十分乾燥していることを確認してください。
専用のアンダーレイにアルミを使用しているため、電気式床暖房には施工しないでください。
- ・ ビスでフローリングを固定した場合、フローリングの伸縮を妨げ、突き上げや床鳴りの原因となるため固定しないでください。
- ・ 重量物を設置する場合は、敷板やインシュレーターなどを用いて荷重を分散させる、または設置部にマルチ見切材を用いて縁切りを行い、フローリングの伸縮を妨げないようにしてください。
- ・ 施工からお引き渡しまでの間はできるだけ居室内を換気してください。突き上げなどの対策となります。
- ・ ワックスがけは絶対にしないでください。ワックスがフローリングに密着せず、反り、目隙、突き上げ、膨れなどの原因となります。

ハイブリッドフローリングの種類

シリーズ名	品番	寸法図 (単位: mm)	商品情報
CLASSIC (クラシック)	MF101~ MF106	(平面図)  (断面図) 	標準価格(税別) 21,230円 / ケース(ケース売) 13,300円 / m ² サイズ 8.0×190×1200mm 梱包入数 1ケース=7枚入 (約1.596m ²)
IMPRESSIVE (インプレス)	MF151~ MF154	(平面図)  (断面図) 	標準価格(税別) 26,610円 / ケース(ケース売) 14,500円 / m ² サイズ 8.0×190×1380mm 梱包入数 1ケース=7枚入 (約1.835m ²)

専用部材

種類	品番	寸法図 (単位: mm)	商品情報
マルチ見切材	MFM101~ MFM106 MFM151~ MFM154		標準価格(税別) 9,800円 / 本 サイズ 高さ13×幅48× 長さ2150mm 基 材 HDF
框材	MFK101~ MFK106 MFK151~ MFK154	【基本形状】  【標準納品図】 	標準価格(税別) 10,000円 / 本 サイズ 厚み12.4×幅200× 長さ2400mm 基 材 MDF
巾木	MFW101~ MFW106 MFW151~ MFW154 MFW201		標準価格(税別) 9,000円 / ケース (ケース売) サイズ 厚み12.4×高さ45× 長さ2400mm 梱包入数 1ケース=6本入 基 材 MDF
巾木出隅材	MFW101A~ MFW106A MFW151A~ MFW154A MFW201A	【上から見た図】  【横から見た図】 	標準価格(税別) 500円 / 個 サイズ タテ28.3×ヨコ28.3× 高さ43.3mm 厚み1.3mm 材 質 AES樹脂
巾木入隅材	MFW101B~ MFW106B MFW151B~ MFW154B MFW201B	【上から見た図】  【横から見た図】 	標準価格(税別) 500円 / 個 サイズ タテ23.3×ヨコ23.3× 高さ43.3mm 厚み1.3mm 材 質 AES樹脂
巾木エンド材	MFW101C~ MFW106C MFW151C~ MFW154C MFW201C	【上から見た図】  【横から見た図】 	標準価格(税別) 500円 / 個 サイズ タテ13.3×ヨコ13.3× 高さ43.3mm 厚み1.3mm 材 質 AES樹脂

種類	品番	商品画像	商品情報
アンダーレイ	MFU301		標準価格(税別) 切売不可 20,000円 / 巻(1,334円 / m ²) 規格 2.0mm厚 94cm巾×長さ15.96m巻
専用工具セット	MFB401		標準価格(税別) バラ売不可 4,600円 / セット ① タッピングブロック ② 引き寄せツール ③ スペースサー

施工の流れ

施工前のご注意

当商品はフローティング工法専用です。
糊や釘またはビスなどによるフローリングの固定は絶対におやめください。

- | | | |
|----|-----------------|---|
| 1 | フローティング工法の確認 | フローティング工法の特徴を理解する |
| ▼ | | |
| 2 | 施工工具の準備 | 施工に必要な工具を準備する
※専用工具セット(MFB401)を推奨 |
| ▼ | | |
| 3 | 商品の準備 | 商品を搬入し、
現場環境に48時間以上なじませる |
| ▼ | | |
| 4 | 商品の確認 | 施工する商品の品名・品番・サイズに間違いがないか、また欠けや破損がないかを確認する |
| ▼ | | |
| 5 | 施工下地の確認・調整・清掃 | 施工可能な下地であるかを確認する
下地に不具合がある場合は下地を補修する |
| ▼ | | |
| 6 | 納め方の確認 | リフォーム時など、巾木の有無、ドアの開閉の妨げとならないか、固定家具や重量物がないかを確認する |
| ▼ | | |
| 7 | アンダーレイの敷き込み | 専用アンダーレイを敷き込む |
| ▼ | | |
| 8 | スペーサーの設置 | フローリングの伸縮を吸収できる適正なクリアランスを確保する |
| ▼ | | |
| 9 | ハイブリッドフローリングの施工 | 適切なクリアランスを確保しながら、糊・釘を使わず施工する |
| ▼ | | |
| 10 | マルチ見切材・巾木の取り付け | マルチ見切材・巾木を取り付けて仕上げる |
| ▼ | | |
| 11 | 框材の施工 | 框材を取り付けて仕上げる |

施工前のご注意

当商品はフローティング工法専用です。
糊や釘またはビスなどによるフローリングの固定は絶対におやめください。

① フローティング工法の確認

ハイブリッドフローリングは、フローリングを下地に固定しない「フローティング工法」で施工します。
この工法のメリットを活かすため、施工前に以下のポイントを必ず理解してください。

●フローティング工法について

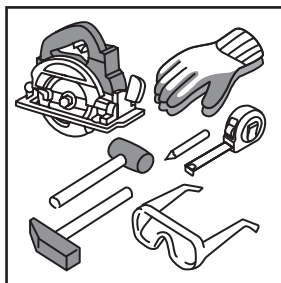
フローリングの自然な動き（伸縮）を妨げないことが重要です。
目隙や突き上げ、きしみ音が発生するのを防ぐため、壁・敷居・階段・配管などの周りには、必ずクリアランス（8mm）を確保してください。
また、フローリングの伸縮を妨げる可能性があるため、糊や釘またはビスなどによるフローリングの固定は絶対におやめください。

② 施工工具の準備

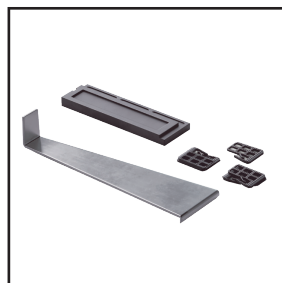
●施工に必要な工具

メジャー、差し金、手鋸、電動丸鋸、金づち、フローリングハンマー、電動ドリル、鉛筆（墨打ち）、安全ゴーグル、マスク（切断作業時）、作業手袋。
※専用工具セットの使用をおすすめします。

（例）施工に必要な工具



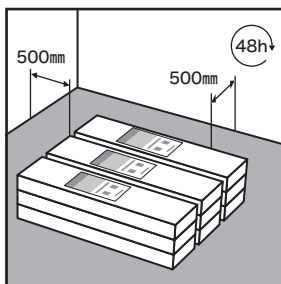
専用工具セット (MFB401)



③ 商品の準備

- ・当商品は角がキズつきやすいため、搬入中・施工中の荷扱いには十分注意してください。
- ・商品は立てかけず、平置きしてください。
- ・保管時は、地面に直接置かないでください。パレット積みまたはシートを敷き養生することで、下地からの湿気を遮断してください。
- ・フローリングは室内の湿度が30～75%ある環境が理想的です。48時間以上前に現場に搬入し、壁から離して養生してください。

商品の保管方法

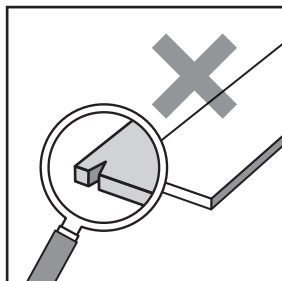


④ 商品の確認

① ハイブリッドフローリング本体

- ・ 施工開始前に正しい商品が届いているか、梱包ケースに記載されている品名・品番・サイズをご確認のうえ、施工を開始してください。
- ・ 商品の表面や角、またはサネ部分にキズ・欠け・破損がないか確認してください。不具合のあるものは、取り除いて施工してください。

商品の確認



② 専用部材

- ・ 下地からの防湿および不陸緩和のため、必ず専用のアンダーレイを使用してください。
- ・ アンダーレイ、マルチ見切材、框材、巾木、巾木出隅材、巾木入隅材、巾木エンド材の詳細はP.33～37をご確認ください。

アンダーレイ



マルチ見切材



框材



巾木



巾木出隅材



巾木入隅材



巾木エンド材



5 施工下地の確認・調整・清掃

①施工可能な下地とできない下地

	新築・貼替の場合	上貼りリフォームの場合
施工可能な下地	●厚み12mm以上の合板 ●たわみのない木質系下地 ●コンクリートスラブ	●クッション性のない木質フローリング ●クッション性のないビニル床材
施工できない下地	●上記以外は×	●クッション材が付いている床材(遮音フローリングなど) ●クッション性のある床材(カーペット、クッションフロアなど)

②下地条件

下地条件を満たしていない場合は、必ずフローリング施工の前に調整を行ってください。施工後のフローリングの破損、床鳴り、突き上げなどの不具合が発生する恐れがあります。

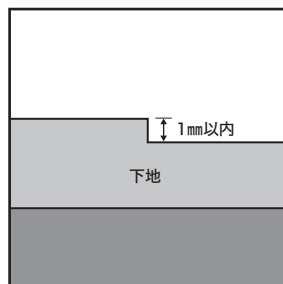
下地調整が終わった後で部屋全体をホウキや掃除機などで清掃してください。

		下地			処置例
		合板	コンクリートスラブ	既存床 ^{※1}	
平滑性	段差	1mm以内			段差を削る(フロアセメント(BB492、493) ^{※2} で平滑にする)
	不陸	1mあたり2mm以内 / 20cmあたり1mm以内			フロアセメント(BB492、493)で調整する
	突起	突起がないこと			サンダーなどで突起を削る
	凹み・穴	凹み・穴がないこと			フロアセメント(BB492、493)を充填する
表面状態	表面剥がれ	剥がれ・ウキがないこと			剥がれを除去し、フロアセメント(BB492、493)を充填する
	ウキ				
	ゴミ・ホコリ	ゴミ・ホコリがないこと			掃除機で除去する
床鳴り		床鳴りがないこと			例)床鳴り部のビス打ち固定(床暖房のない場合)
下地含水率		14%以下 山崎精機製 水分計など	6%以下 HI-540 モルタルモード	14%以下 山崎精機製 水分計など	湿っている場合は、乾燥してから施工する

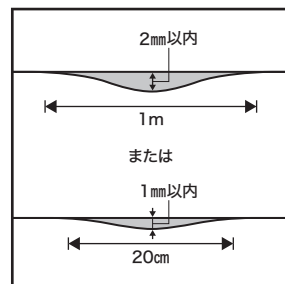
※1 既存床の種類によってはフロアセメント(BB492、493)が密着しない場合があります。適切な補修材をご使用ください。

※2 フロアセメント(BB492、493)の詳細は25-27ペンリデザイン見本帳をご確認ください。

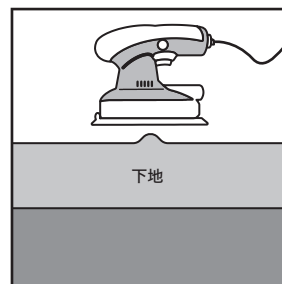
段差の確認



不陸の確認



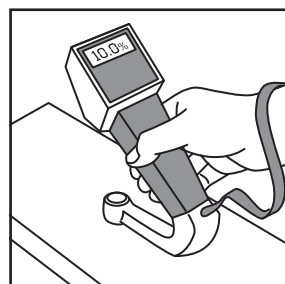
突起の補修



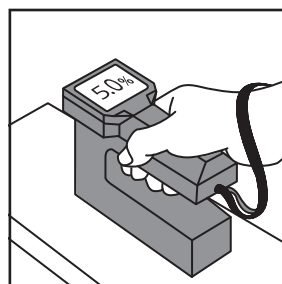
清掃



下地の水分確認
(木質下地の場合)



下地の水分確認
(モルタル・コンクリート下地の場合)



6 納め方の確認

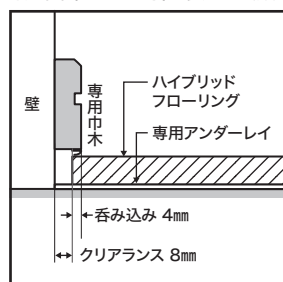
周囲の納め方については事前に確認を行ってください。

ハイブリッドフローリングは、床面全体で伸縮します。端部には必ずクリアランスを設けてください。

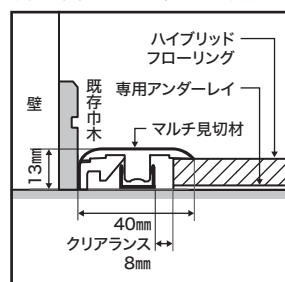
① 部屋の周囲の納め方

部屋周囲の壁面部や貼り終わりにクリアランスを設ける際は、ハイブリッドフローリング専用の巾木またはマルチ見切材をご使用ください。

専用巾木(12.4mm厚)を使用する場合



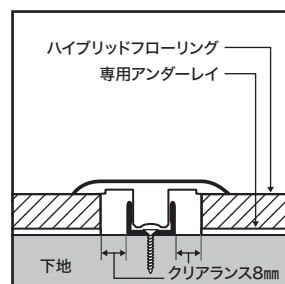
既存の巾木をそのまま使用する場合



② ドアなどの建具下

ドアなどの建具下にクリアランスを設ける場合は、マルチ見切材をT型見切に加工してご使用ください。(詳細はP53・54をご確認ください。)

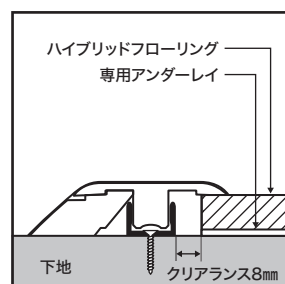
T型見切



③ リフォーム時の段差解消

リフォーム時に段差が生じる場合は、マルチ見切材を段差見切に加工してご使用ください。(詳細はP53・54をご確認ください。)

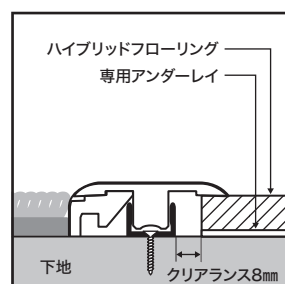
段差見切



④ 他の床材との取り合い

他の床材との取り合いは、マルチ見切材を切替見切に加工してご使用ください。(詳細はP53・54をご確認ください。)

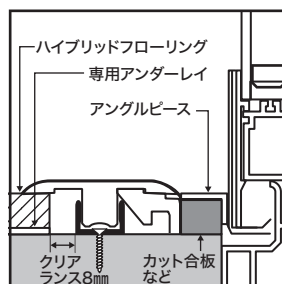
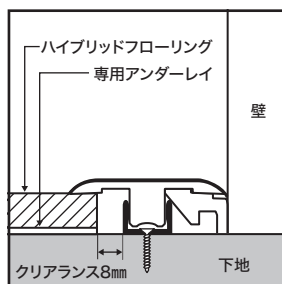
切替見切



⑤ 壁際・掃き出し窓との取り合い

巾木を施工しない壁際や掃き出し窓などの場合は、マルチ見切材をL型見切に加工してご使用ください。(詳細はP53・54をご確認ください。)

L型見切



※上図はサッシ(アングルピースなど)との納め方の一例です。

現場の状況に合わせて施工してください。

※商品の仕様上、約3.9mmの段差が生じますので、あらかじめご了承ください。

⑥ 重量物を設置する時

キッチンなどの重量物や床とビスで固定する造作家具などは、フローリングの伸縮を妨げる原因となります。設置場所をあらかじめ確認し、その区間は縁を切ることで対応してください。※詳細はP.52キッチンの施工方法をご確認ください。

7 アンダーレイの敷き込み

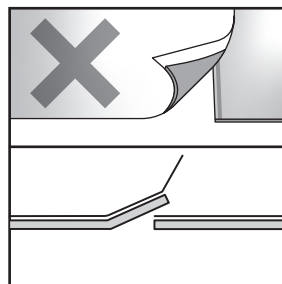
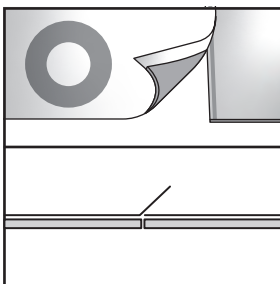
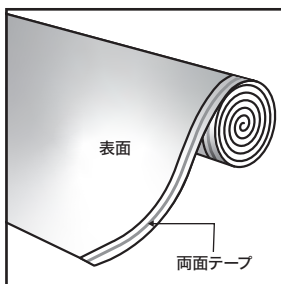
① アンダーレイの効果について

アンダーレイを使用することで下地床面の不陸・凹凸を緩和します。また防湿の効果があるため、必ず使用してください。

② アンダーレイの敷き込み方法

幅ごとにアンダーレイを敷き込んでいきます。アンダーレイの継ぎ目にはあらかじめ貼り付けされた両面テープを使用して貼り合わせてください。その際に、アンダーレイ同士は必ず重ねず「突き付け」としてください。

アンダーレイの仕様



アルミシートの表面の両面テープを利用して突き付けで貼り合わせてください。

※両面テープのない辺で繋ぎ合わせる場合は、別途養生テープを用いて、必ずジョイント部分を段差なく貼り合わせてください。

8 スペーサーの設置

ハイブリッドフローリングは、床面全体で伸縮します。ハイブリッドフローリングの周囲すべての方向に対して、所定の大きさのクリアランスを必ず設ける必要があります。

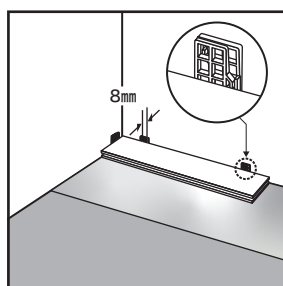
① クリアランスの大きさ

- 1) 施工長さ13m未満の場合、周囲に8mmのクリアランスを設けてください。
- 2) 施工長さ13m以上の場合、マルチ見切材で区切り、一区画13m未満とした上で、周囲に8mmのクリアランスを設けてください。
- 3) 部屋と廊下の境目(ドア下)などでエリアが分かれる場合、長さが13m未満であってもマルチ見切材で区切ってください。

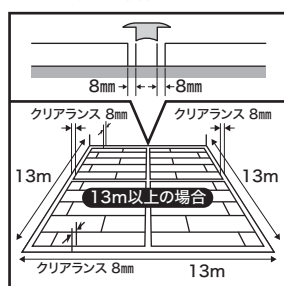
② クリアランスの設け方

クリアランスを設ける箇所に、別売りの専用工具セットのスペーサーまたは、フローリングの切断端材(8mm厚)を設置し、スペーサーに対してフローリングを突き付けて施工してください。

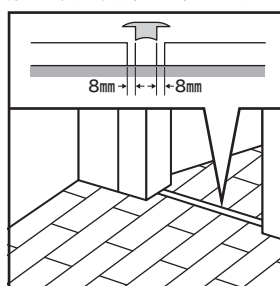
スペーサーの使用



長さ13m以上の場合



部屋と廊下の境目(ドア下)などの場合



9 ハイブリッドフローリングの施工

施工前のご注意

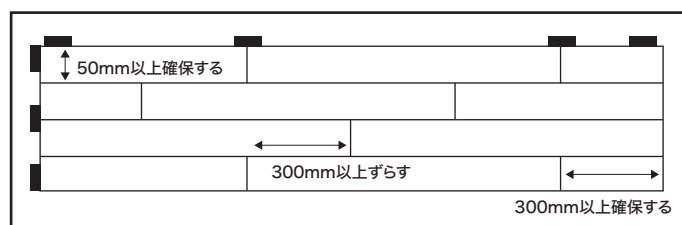
当商品はフローティング工法専用です。
糊や釘またはビスなどによるフローリングの固定は絶対におやめください。

① 仮並べ

施工を始める前に、必ず仮並べを行い、色の濃淡、柄の偏りがないように、全体のバランスを確認してください。

② 割付

- ・ 短辺の接続箇所が隣合わないよう、300mm以上ずらしてください。
- ・ 壁側などのカット材は、短辺50mm以上、長辺300mm以上を必ず確保してください。(※極端に短い場合は、目違い、目隙の原因となります。)
- ・ 施工長さが13m以上になる場合は、マルチ見切材で区切り、ひと続きで施工する長さは13m未満としてください。

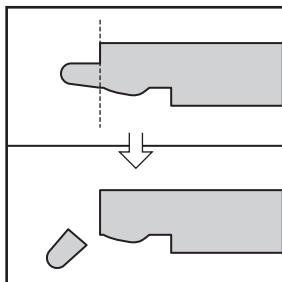


③ フローリングの施工

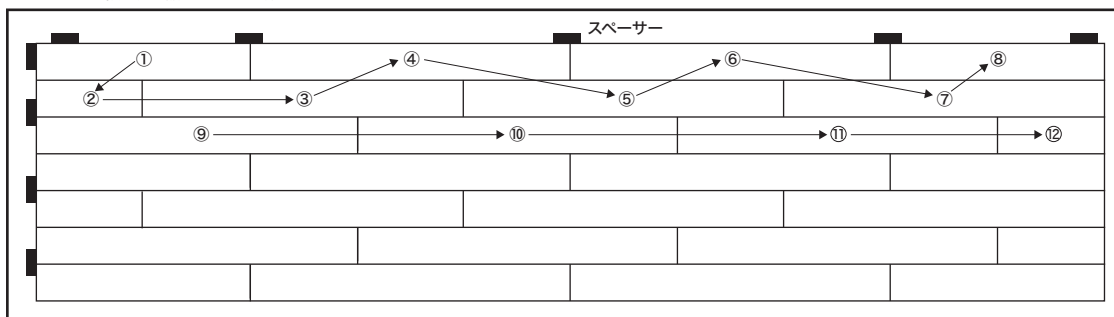
1) 敷き込み手順のポイント

- ・必ずフローリングの周囲と壁際にスペーサーを用いてクリアランス (8mm) を設け、施工してください。
- ・敷き込み始め (1列目) など、壁側 (クリアランス側) にサネがくる場合は、納まりを良くするために必ずサネを切り落としてください。
- ・部屋の左端から敷き込み始め、1列目、2列目は直線を出しやすくするために目地が互い違いになるようにはめ込み (クリック) してください。
(直線が担保できる場合は、1列ずつ順に施工していただくことも可能です。)
- ・最初の3列は、壁から離れた状態でフローリングをはめ込み (クリック) させた後に、壁際 (スペーサー側) にずらすと施工しやすくなります。
- ・サネ部のバリは隙間の原因になるため必ず除去し、フローリングが確実にハマっているか状態を確認しながら施工してください。

サネの切り落とし



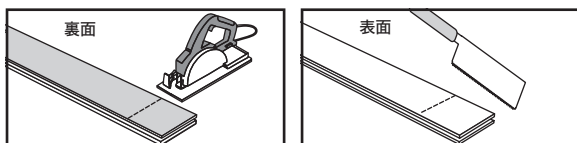
クリアランスの設け方と敷き込みの手順



2) フローリングの切断について

フローリングを切断する際に、「丸鋸」を使用する場合は木目柄面を下向きにし、「手鋸」を使用する場合は木目柄面を上にします。

フローリングの切断



3) フローリングのはめ込み

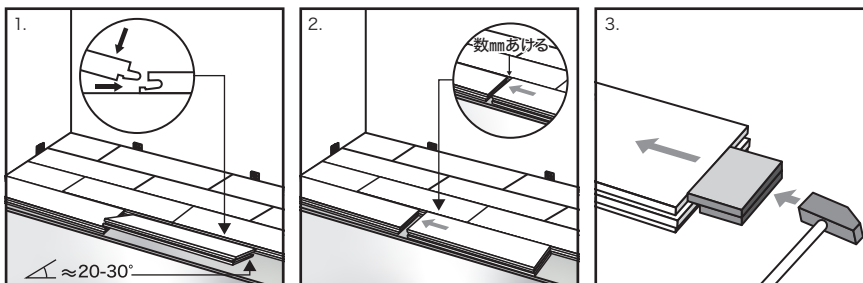
方法A：タッピングブロック (専用工具セット) を使用した方法

下記方法にてフローリングをはめ込み (クリック) します。この際に、強くフローリングを叩き込まず、軽く叩きながら少しずつ押し込んでください。

強く叩くとサネが破損し、目違いや床鳴りの原因となりますのでご注意ください。

※はめ込み (クリック) したときに、嵌合部の隙間が0.15mm (名刺1枚分) 以上の場合は、しっかりとハマっていない状態のため、しっかりと嵌合させてください。

はめ込み (クリック) の仕方



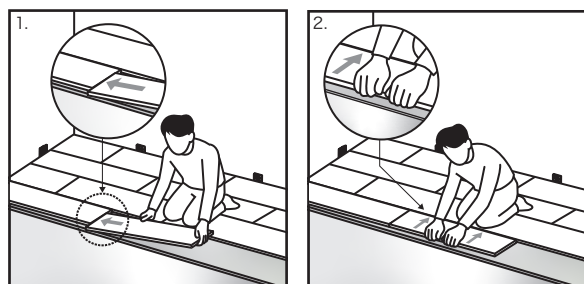
1. 長手方向の雄サネを雌サネに差し込みます。
2. 左側へスライドさせながらすでに設置されているフローリングの短辺から数mmあけて、平置きします。
3. タッピングブロックを使用することでサネを傷めず、フローリングを押し込むことができます。

方法B：タッピングブロック(専用工具セット)なしでの方法

下記方法でもはめ込み(クリック)することは可能です。

サネを強く押し込んだり、引っ張ったりすると、サネが破損し、目違いや床鳴りの原因となりますのでご注意ください。

※はめ込み(クリック)したときに、嵌合部の隙間が0.15mm(名刺1枚分)以上の場合は、しっかりととはまっていない状態のため、しっかりと嵌合させてください。



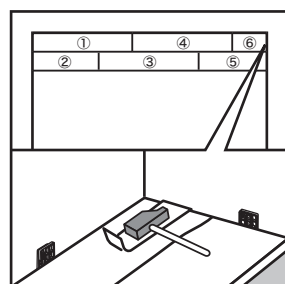
1. 新たに設置するフローリングの短辺をすでに設置されているフローリングの短辺に数mmあけて差し込みます。

2. 設置するフローリングを20~30°ほど持ち上げて自分の方へフローリングを引き込んで長辺のサネをはめ込み(クリック)します。

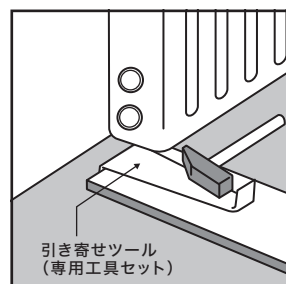
4) スペースが狭い場所ではめ合わせ

壁際などのフローリングのはめ合わせが難しい場所では、引き寄せツール(専用工具セット)と金づちを使用してフローリングを引き合わせることであります。

壁際のはめ込み方



狭い場所の施工



5) フローリングの外し方

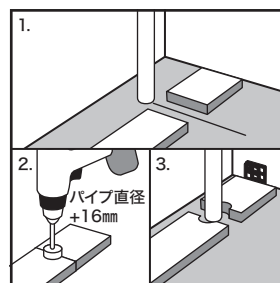
フローリングを取り外す際、該当する1枚のみを持ち上げると、サネ部が破損する恐れがあります。取り外しの際は、該当列全体の長手サネを外してから対象のフローリングを取り外してください。

1. 長手方向に手を添えて、列を持ち上げて、長手嵌合を外す。
2. 短手方向端部に手を添えて、20~30°程度持ち上げて短手嵌合を外す。

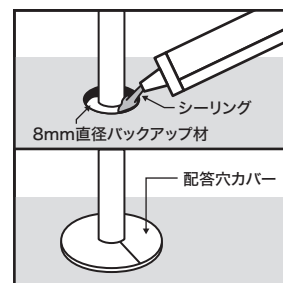
6) 配管まわりの施工

1. フローリングの穴あけ位置を確認する。
2. パイプ直径+16mmで穴あけする。
3. フローリングの短辺ではめ合わせる。
4. 配管の周囲は、市販の配管穴カバー、またはシーリング処理を行う。
※シーリング推奨品: セメダイン8060シリーズ
※バックアップ材: 市販の直径8mm

パイプ箇所



配管の周囲の処理



7) その他の納め方の例

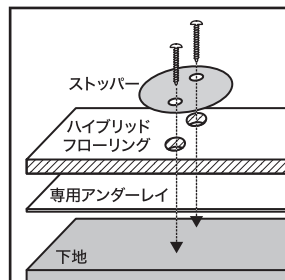
ストッパーなどビスによる固定が必要な場合

フローリングの伸縮を妨げないよう、下地と直接ビスで固定しないでください。

例) 戸当りストッパー

フローリングにはビス径より一回り大きな穴をあけ、クリアランスを確保したうえで、下地にのみビスで固定してください。

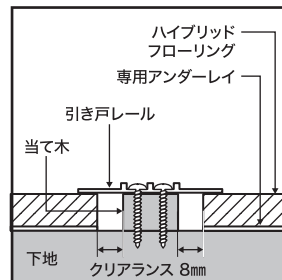
戸当たりストッパーの固定方法



例) 引き戸レール

フローリングには直接ビスを打たず、当て木などを使用して下地に固定してください。また、引き戸レールでフローリングを強く押さえつけると伸縮の妨げとなるため、ビスの締め付けすぎにご注意ください。

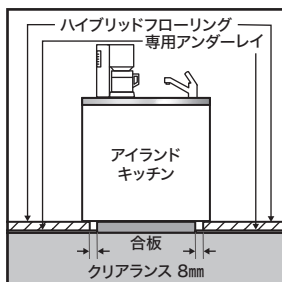
引き戸レールの固定方法



キッチン

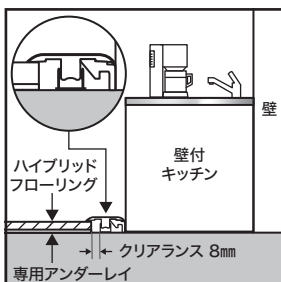
新築の場合は先に設置場所を確認した上で下地を12mm合板で底上げし、フローリングの伸縮のためのクリアランス (8mm) を設けてください。
リフォーム工事で底上げできない場合はキッチンの手前でマルチ見切材をL型見切に加工してご使用ください。

合板でかさ上げる場合



12mmの合板で底上げする

マルチ見切材を使用する場合



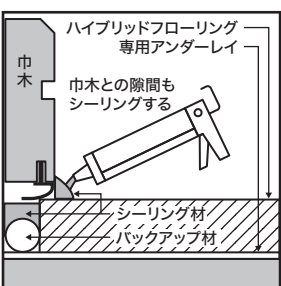
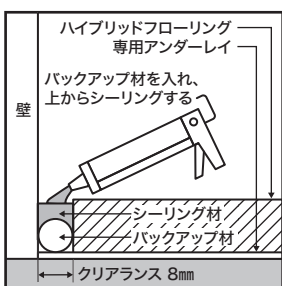
マルチ見切材をL型見切に加工する

床暖房下地への施工の場合

- ・ 非床暖房下地への施工と同様です。床暖房機器メーカーの施工説明書をよく読み、注意事項を守って正しく施工されているか確認してください。
床暖房放熱体の通湯テスト試運転など機器の工事および検査が完了してから、施工してください。
- ・ 専用のアンダーレイ (MFU301) にアルミを使用しているため、電気式床暖房には施工しないでください。

水まわりなど防水処理が必要な場合

クリアランスに直径8mmのバックアップ材 (市販) を埋めてください。



床下収納・点検口

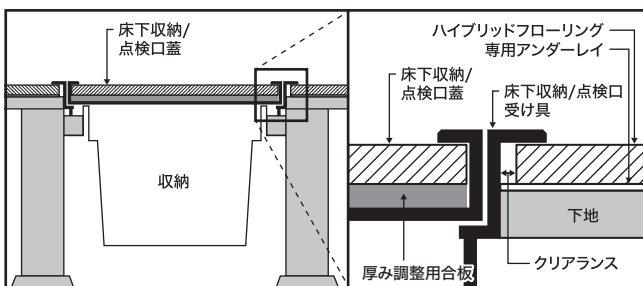
床下収納・点検口は、床下収納メーカーの施工説明書に従って設置してください。

・ 蓋の組み立て

使用する床下収納の施工説明書に従って、指定された蓋板の厚みとなるように蓋材の作製を行ってください。

(例: 12mm厚み指定の場合 4mm合板+8mmハイブリッドフローリング (アンダーレイは不要))

厚み調整板とフローリングを貼り合わせる際は、木質フローリング用接着剤を全面に塗布して貼り合わせてください。



階段

ハイブリッドフローリングで階段部材の取り扱いはありません。階段との取り合い部分は、必ずマルチ見切材をL型見切に加工してご使用ください。

8) スペーサーの撤去

フローリングをすべて敷き込み終わったらスペーサーを取り外してください。

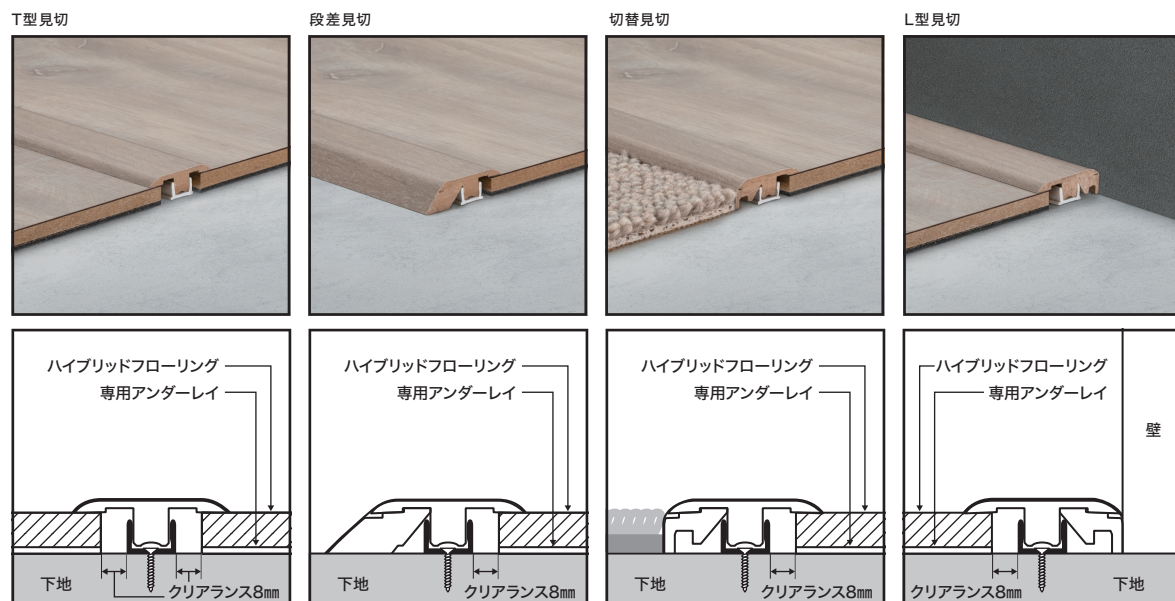
9) フローリングの養生

施工後は、キズや汚れを防ぐために、養生シートを被せ、養生テープで固定してください。養生は、フローリングを清掃した後に行い、養生シートとフローリングの間にゴミなどがいないようにしてください。

10 マルチ見切材・巾木の取り付け

マルチ見切材

マルチ見切材は、付属の専用スリッターで表面のシートをカットすることで、施工箇所に応じた「T型・段差・切替・L型」の4種類に形状を変えてご使用いただけます。

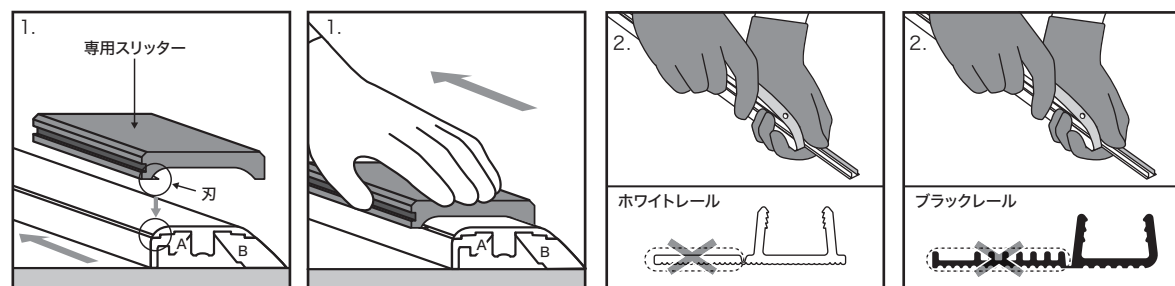


①事前準備と注意点

- ・設置したい長さに合わせて、マルチ見切材本体とプラスチックレールをノコギリ等でカットしてください。
- ・付属の専用スリッターを使用する際は、安全のため必ず手袋を着用し、水平な場所で作業を行ってください。

②加工・設置の手順

1. シートの切断:専用スリッターの刃先を端部の切り込み部分に当て、矢印の方向へ水平に引いて表面の意匠シートを切断します。
パーツの分離:本体は3つのパーツで構成されています。切断後、用途に合わせて不要なパーツ(A・B)を本体から取り外してください。
2. レールの設置とクリアランス:プラスチックレールの不要な部分は下図(2.)のように手で切り取ってから、下地にビス止めしてください。
※手で切り取れない場合は、カッター等で切り込みを入れてから取り外してください。
専用アンダーレイはプラスチックレールの手前でカットし、フローリングの伸縮を妨げないよう、フローリングとプラスチックレールの間には必ずクリアランス(8mm)を設けてください。



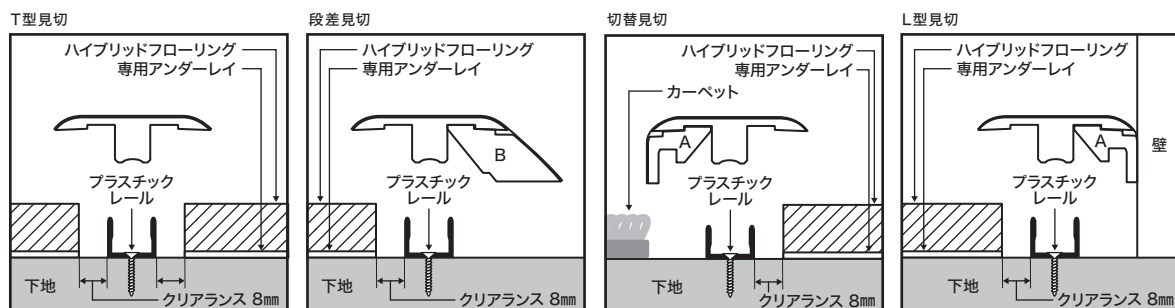
●プラスチックレールの種類について

プラスチックレールは品番によって2種類あり、形状が若干異なります。上図(2.)をご参照のうえ、作業を行ってください。

ホワイトレール:MF101・103~106・151~153

ブラックレール:MF102・154

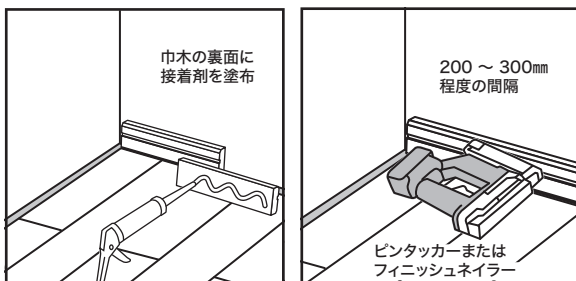
3. プラスチックレールの底に着くまでマルチ見切材を押し込んで取り付けてください。



巾木

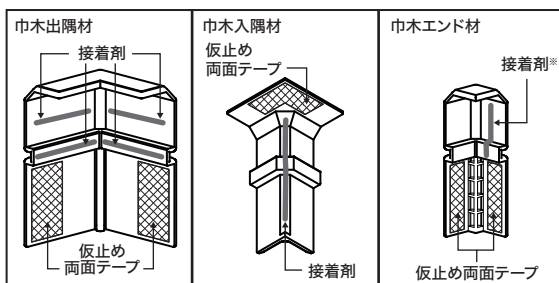
①巾木の取り付け

巾木の裏面に木工用ボンドまたは、木質床材施工用の変成シリコーン樹脂系接着剤を塗布径:3mm程度で塗布してください。次に、巾木を壁に沿って取り付け、200~300mm程度の間隔でピンネイルまたはフィニッシュネイルで固定してください。その際、巾木のヒレがフローリングに軽く触れる程度に取り付け、強く押し付け不要ご注意ください。強く押さえすぎるとフローリングの伸縮を妨げ、突き上げや隙間の原因となります。(巾木出隅材・入隅材・エンド材はそれぞれの専用部材があります。)



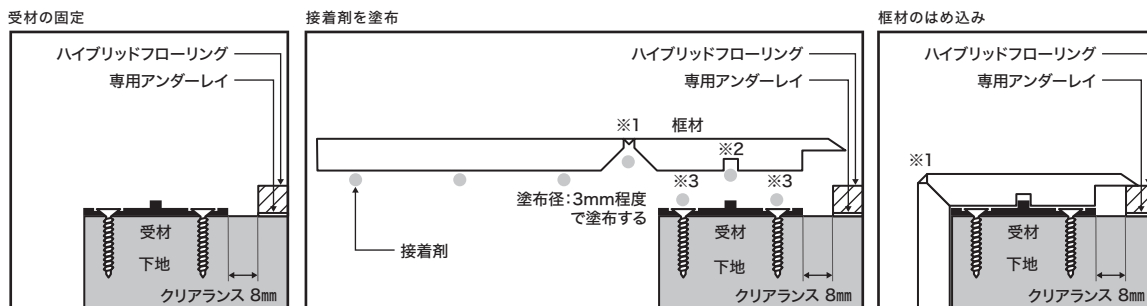
②巾木出隅材・入隅材・エンド材の取り付け

各部材に接着剤を塗布径:3mm程度で塗布し、両面テープと併用して巾木本体へしっかりと固定してください。



※巾木エンド材の接着剤は、必ず表面(化粧面)と当たる側へ縦1本(塗布径:3mm程度)塗布してください。

11 框材の施工



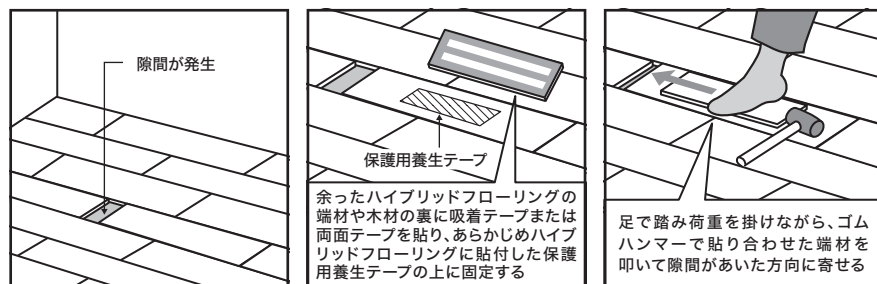
1. 框材と受材を、設置場所に合わせて必要な長さにカットしてください。
2. 受材とフローリングの間隔(クリアランス)を8mm確保してください。
3. 受材を下地にビスで確実に固定してください。
4. 最も負荷がかかる段鼻部分^{※1}は、補強のために溝内へ接着剤を充填してください。
あわせて、框全体の固定強度を高めるため、框材裏面^{※2}・受材の溝^{※3}にも、塗布径:3mm程度のビード状に塗布してください。
※使用接着剤:木質床材施工用のウレタン樹脂系接着剤、または変成シリコーン樹脂系接着剤
5. 框材を受材の溝に合わせてはめ込み、浮きがないようしっかりと圧着・固定してください。

ハイブリッドフローリングの補修

ハイブリッドフローリング補修の際は、木工用ボンドをおすすめします。

① フローリングのあいた継ぎ目の補修方法

湿度によってフローリングは多少伸びたり縮んだりします。サネのクリック部分が外れて、隙間が生じた場合は、余ったフローリングに吸着テープや両面テープを貼り、その上に乗って押さえながら、ゴムハンマーで叩いて元の位置に引き寄せます。

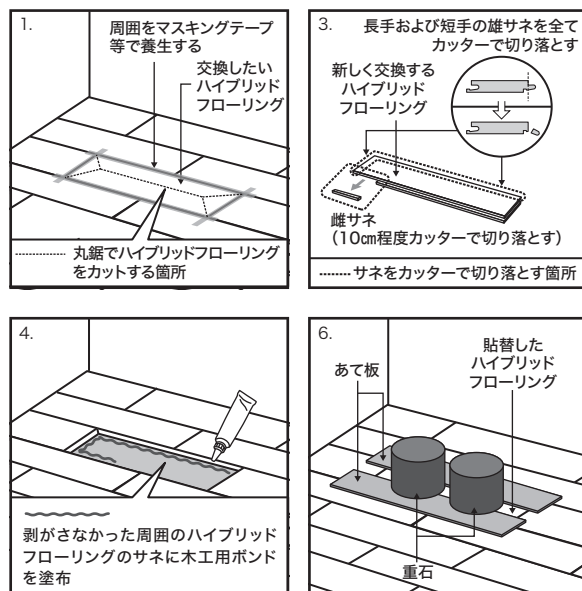


もし、上記の方法で隙間が戻らない場合、下記の方法をお試しください。

1. あいた継ぎ目を見て、フローリングのずれた方向を確認し、ずれた壁側の巾木を外します。
2. あいた継ぎ目を塞ぐために必要なフローリングを取り外します。
3. フローリングを再度はめ直します。その際に、隙間があいたフローリングのサネ部には、木工用ボンドを塗って、再び嵌合部が外れないようにします。

② 部分交換の方法

1. 交換したいフローリング1枚の周囲にマスキングテープを貼り、養生をします。
アンダーレイまで切らないように丸鋸の刃の深さをフローリングの厚み(8mm)に調整し、切断して取り外します。
2. カットの際に発生した木くずを掃除機で取り除きます。
3. 新しいフローリングのサネをカッターで切断します。
4. 周囲に残っている既存フローリングの雌サネ全体および長手雄サネの一部分に木工用ボンドを塗布します。
5. 新しいフローリングの長手の雌サネから先にはめ込み、短手の雌サネをはめ込んだ後に、短手の雄サネ側をタッピングブロックで叩きながらはめ込みます。
6. 接着剤がはみ出した場合はただちに拭き取り、余ったフローリングを当て板としてつなぎ目の上に乗せ、その上に重石を乗せます。
接着剤が固まったら重石、養生テープを除去します。



メンテナンス・使用上のご注意

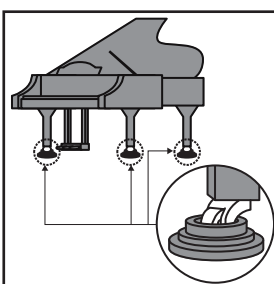
普段のお手入れ



水がこぼれた場合



重量物を設置する時



● 室内環境

フローリングは室内の湿度が30～75%ある環境が理想的です。乾燥している時期は必要に応じて加湿器をご使用ください。

● 清掃方法

普段のお手入れはホウキや雑巾または掃除機を使用してください。ホウキや掃除機をご使用いただく前に、硬い毛や硬いキャスターなどでフローリングをキズつけないか目立たない箇所で試してからご使用ください。スチームクリーナーは使用しないでください。

● 水がこぼれた場合

放置せずすみやかに乾いた布で拭き取ってください。

水が目地から浸入しにくい商品仕様となっておりますが、長時間水をこぼしたまま放置すると突き上げ、膨れなどの原因となります。

● キズの予防

家具や椅子の脚の裏に市販の保護用のフェルトを貼るとキズがつきにくくなります。家具などはフローリングの上を引きずらずに持ち上げて移動させてください。

● 汚れの落とし方

汚れが付着した際は、乾拭きもしくは硬く絞った濡れ雑巾で拭き取ってください。頑固な部分汚れは消毒用エタノール等で丁寧に取り除いてください。上記の方法で落ちない場合はメラミンスポンジをご使用いただけますが、目地部分は撥水コーティングが剥がれる場合がありますので、ご使用はお避けください。メラミンスポンジ以外の研磨剤や研磨材入りのスポンジなどは絶対に使用しないでください。

● コーティングについて

フローリングにワックスやニスなどのコーティング剤は絶対に塗らないでください。コーティング剤が密着しなかったり、フローリングの反り、目隙、膨れ、突き上げなどの不具合が発生する恐れがあります。

● 家具設置上のご注意

大型家具、ピアノなどの重量物を設置する場合、敷板や専用のインシュレーターなどを脚部に敷き、荷重を分散させてください。

● キャスター付きの椅子のご注意

硬いキャスターが付いている椅子の場合は、フローリングをキズつける恐れがありますので、チェアマットなどを下に敷いてからご使用ください。

● 専用部材の段差について

商品の仕様上、専用部材とフローリングの間には段差（マルチ見切材：約3.9mm、框材：約4.4mm）が生じます。あらかじめご了承ください。

● 床鳴りについて

木質系床材は、温湿度の変化により伸縮する特性があります。そのため、フローリングの継ぎ目部分がこすれて音が発生する場合がありますが、商品の特性上やむを得ない現象であり、商品の品質や強度に影響を与えるものではありません。あらかじめご了承ください。